

令和6年度第1回経営アドバイザー会議議事録

開催日時	令和6年11月26日（火） 午前10時から正午まで
開催場所	千葉県立房総のむら 館長室
出席者内訳	豊田佳伸 委員 柏木恭子 委員 秋山笑子 委員 山田篤 委員 和地滋巳 委員 房総のむら：岩崎館長・鎌形副館長兼事業課長 安藤管理課長・長谷川広報普及グループ長 千葉県立教育振興財団：田邊事業企画課長
議 事	・令和6年度上半期事業について ・運営についての意見交換 ・その他
質問、意見、要望等	① 事業内容は充実しており、体験時の安全面にも配慮がありよい。 ② 房総のむらは公共の博物館なので、みなさんに楽しんでいただくのが一番の目的だと思うので、たくさんのお客様に来ていただけるような企画を考えていくと、更に発展し知名度も上がり栄町の住民としてもありがたい。 ③ コロナ禍で減ってしまった入館者数だが、コロナ後でも個人の入館者数・外国人入館者数・体験者数が戻っていない。新たな広報や話題作りが必要である。学校への広報は、次年度の遠足の予定が決まる前に房総のむらから情報を発信していくことが大事である。インバウンド対策についても具体的な方法を考える必要がある。 ④ 学芸員が何をすべきか、博物館は何を目標にするのか、という指針をきちんと決め、そのために何をするかを考える時期にきていると思う。 ⑤ 令和6年度の入館者数と入館料は、コロナ時に比べてもどってきたとの事だが、コロナ前の何割ぐらい復活したのか。 ⑥ 満席になった考古学講座「埼玉古墳群からみた東国の古墳文化」は、どのような点が参加者の興味関心を引く要素であったのか。 ⑦ 収入・入館者数について目標があったのか。入館者数・入場料は前年度に比べ増えているが、体験者数は7千人減り、収入も減っている。酷暑でも入館者数は増えており、素晴らしい施設なのに体験者数の減は残念である。

質問、意見、要望等	⑧ 入館者数がピーク時に比べ10万人減っているのは、外国人の方の入館者数が減ったということか。 ⑨ 房総のむらのPRについては、企業の営業活動と連携して行う事も可能である。 ⑩ 収益を上げて、職員の福利厚生等に役立てられないか。 ⑪ 博物館法が変わり、観光施設的な役割が加わったが、博物館として学術的な部分の発信をしていかななくてはならない。収穫体験を観光農園化しないためには、楽しみの中にも博物館としてのメッセージを入れていかなければならない。 ⑫ 脱自前主義で、外部の力を借りてやっていく必要があるのではないか。
むらからの回答 ※丸囲み数字は、「質問・意見・要望等」に対応	⑤ コロナ禍前の平成30年度に比べて令和6年度の1か月平均の入館者数は62%であり、入館料は72%となっています。 〔入館者数 平成30年度2.1万人/月 令和6年度1.3万人/月〕 ⑥ 興味関心を引いた要素としては、雄略天皇の存在を明らかにして話題となった埼玉古墳群をテーマにしたからだと思います。 ⑦ 入場者数のピークは平成23年度の約28万人です。コロナ前の平成30年度は25万人でありこの2つの数値を目標として捉えています。 しかし、今期の入場者数の見込みは15万人程度です。 ⑧ 外国人の方の入館者数はほぼ横ばいであり、国内のお客様の入館者数が減っています。また、収入の減少は、中国の方等がお土産で買っていた部分がなくなったこともあります。 ⑩ 収益の使い道については、財団本部と協議して参りたいと思います。 ⑪ 体験や演目を職員だけの力で行うのは、量や質ともに限りがあるので、民間の力を活用することでより効率的で高度な体験も実施できるのではないかと考えています。